

日本公民館学会
日常生活を支える公民館事業論

松本市の公民館活動と地域づくり 島内地区の実践について

島内地区下田町会 町会長 逢澤 幸子

2

本日お話しすること

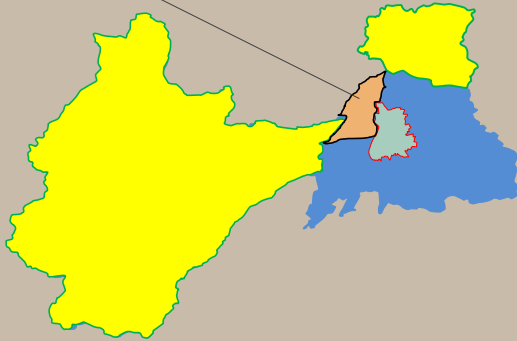
- 島内地区・下田町会の紹介
- 平瀬古城会の活動の紹介
- 派生した活動の紹介
- まとめ

松本市 島内地区の紹介

(2022.5.1松本市統計)

島内地区

- ・人口は市内で多い方から7番目
- ・世帯数は市内で多い方から8番目
- ・高齢化率は市内で低い方から6番目(市28.4%)
- 高い町会64.2%⇔低い町会15.6%



	松本市	島内地区
人口	236,640人	12,421人
世帯	108,058世帯	5,384世帯
高齢化率	28.4%	26.3%
後期高齢化率	15.8%	14.9%
面積	978.47km ²	14.23km ²
市政施行	明治40年	昭和29年合併

※地勢が異なる20の町会

農業エリア、山間地域、JR沿線沿い、世帯数増加OR減少、県・市営住宅、新興住宅、アパート、三世同居OR核家族・独居など…

3

下田町会の紹介

	島内地区	下田町会
人口	12,421人	40人
世帯	5,384世帯	17世帯
高齢化率	26.3%	45.0%
後期高齢化率	14.9%	32.5%

平瀬城跡登城路 下田入口



平瀬城跡本城・南支城・下田町会集落



「平瀬城」について

江戸時代に松本藩主水野氏が編纂した『信府統記』には、犬甘（いぬかい）氏の一族である平瀬氏の居城であろうと書かれています。また、武田氏の史料である『高白斎記』には、天文20年(1551年)10月に、武田氏が平瀬城を攻め、204人を討ち取り平瀬氏が滅亡したという記載があります。ただし、平瀬氏滅亡の場所は、平瀬氏の居城である川合鶴宮八幡神社地とする説もあります。（松本市HPより）



平瀬城跡を西側から



平瀬城跡の整備保存の取組み

■下田町会と山田町会の地道な取組み

⇒平瀬城跡は、両町会の住民で50年以上整備・保全・活用に取り組んできている。人口減少と高齢化により維持が難しくなるなか、新たな保存活用方法を模索。

■松本市特別史跡指定に合わせて平瀬城跡一口城主会設立

⇒平成26年の市特別史跡指定を契機に、広がり求めて設立。地区内外の約70名で組織され、仲代達矢さんを名誉城主へ(公民館・出張所も参画) 5年程度経過すると、①高齢化・予算減 ②任意組織で活動することの難しさ ③役員の心労等もあり、活動が停滞。

■令和元年春、島内公民館へ相談…

⇒「城主会を12月に解散したい。思いやりやりたいことはあるが、『特別史跡』を一部の人達で守るのは難しい。公民館も一緒に考えてほしい。」と相談

平瀬城跡を認知してもらうために…

■平瀬城跡聞いたことはあるが…

⇒公民館が住民リサーチ、半分は「聞いたことはあるけど、どこ?」「知っているけど行ったことはない」との反応

■学習会などを通じて、徐々に地域へ広げる!?

⇒地域内へ徐々に認知度や価値を広げて「みんなで守ろう」という機運を高めて行くには時間がない。**(解散まで半年)**

⇒平瀬城跡=下田・山田町会のもの/「突然地区全体で考えたい」と言っても、拒否反応が起こる可能性が高かった。

■地区内の町会長等を平瀬城跡へそれとなく連れて行く

⇒本城の存在と眺望のすばらしさを町会長等に知ってもらうために、地区健康ウォーキング大会で平瀬城跡へ(一般合わせ80名参加)

健康ウォーキングの結果…。

- 歴史的に大切な場所
- 本城からの眺望もすばらしい



平瀬古城会設立(地域文化遺産ネットワーク)

■目的

⇒平瀬城跡を核にした関連史跡・文化財等の歴史遺産を、地域全体の取組みとして整備・保全・活用を推進することで、後世へつなげる。

■コンセプト

⇒会員が楽しみながら、自由に意見を出し合い、積極的かつ主体的に活動する。「やりたいことをみんなで」

■活動

⇒一口城主会から引継ぐ、平瀬城跡の整備作業
⇒周知活動(文化財や活動内容)・学習活動
⇒会員から提案される取組み ……等

平瀬古城会の現在の活動

■継続事業

⇒整備作業/周知活動/学習活動/ウォーキング等

■一般向け新規事業 平瀬城跡で「狼煙まつり」

⇒狼煙上げ、火縄銃演武、太鼓演舞、慰霊行事

⇒6月から運営委員会を組織して検討開始

⇒「やりたいこと」「やり方」等から検討

⇒地区内の業者により、ドローン映像等記録化

※駐車場・トイレ等の課題も検討



■会員向け新規事業「どぶろく酒製造」と「染物体験」

⇒会員からの酒米提供により、どぶろく酒「平瀬城」製造

⇒「平瀬古城会」の名入りタオルやハンカチの染物体験

平瀬古城会を中心としたつながりの発展

■ 平瀬城跡を核に地区内文化財等関係者をネットワーク化

⇒平瀬城跡関連史跡の関係者をベースに、地区内の文化遺産関係者でネットワーク化を図る＝地域全体の取組みへ

■ 島内初の歴史本を制作

⇒大久保知己さん(故/史談会顧問)が島内公民館報に133回掲載した「島内の歴史と文化財」をベースに、調査委員会と史談会等で作成

■ まつもと文化遺産制度に申請

⇒活動を促進していくために、自分たちの地域文化遺産価値を高める。

公民館が思いや活動をつなぎ、**平瀬古城会へ発展**

こうしたつながりが基礎となって…

- 川東4町会（山田、平瀬川東、犬飼新田、下田）による「デマンド型乗合タクシー」の共同運行
- 島内大運動会での町会合同チームでの出場
- 川東3町会（平瀬川東、犬飼新田、下田）による「防災モデル事業」への取り組み

…などを構築できた

「デマンド型乗合タクシー」の共同運行について

小規模町会の少子高齢化・人口減少

川東4町会いずれも高齢者の交通手段の確保が大きな課題に

路線バスの廃止により、30数年間4町会が交通の空白地帯に…

最寄りのバス停にいちばん近い町会でも500m、最も遠い町会は3km

最初に相談したのは2017（H29）年

4町会での打ち合わせは延べ15回、市政懇談会、「住民の意見を聴く会」、住民へのアンケートなどを経て、2019年「島内川東地域公共交通協議会」設立、市地域主導型公共交通事業補助金活用

2020（R2）年4月運行開始

2021年は561便、延べ711人が利用

2022.5.1現在	島内地区	下田町会	平瀬川東	山田	犬飼新田
人口	12,421人	40人	99人	81人	48人
世帯	5,384世帯	17世帯	44世帯	38世帯	23世帯
高齢化率	26.3%	45.0%	48.5%	64.2%	50.0%
後期高齢化率	14.9%	32.5%	30.3%	46.2%	31.3%

島内川東乗合タクシー利用案内

運行目的
交通手段（電車・バス・マイカー）がなく、病院の通院や買い物等に不便な方を対象に、デマンド型乗合タクシーを利用して出掛けの機会を増やすことを目的としています。

運行内容

- ・利用条件
下記町会の住人で事前に利用者登録した方
山田・下田・平瀬川東・犬飼新田
- ・運行日
終日運行は、1日に3便まで運行（運行時間帯は、7:00～18:00）
※土・日・祝日・年末年始は運休
- ・運行区域
A線：下田・平瀬川東・犬飼新田経由 → 松本駅前
B線：下田・平瀬川東・犬飼新田経由 → 島内駅前
C線：下田・平瀬川東・犬飼新田経由 → 徳大駅前
D線：山田 → 松本駅前
E線：山田 → 島内駅前
- ・予約受付時間
B：30～12:00（締め切りは利用希望日の前日 12:00まで）
※乗車日の予約は受けられません。また予約を取り消す場合は早めに連絡ください。
- ・利用料金
1乗車（片道）一般 500円 2乗車（往復）一般 1,000円
小学生 250円 小学生 500円
※小学生未満は無料です。

ご利用方法

- ①電話で予約します。（下田町会長 連絡先）
電話：35-9297 または、携帯：090-4723-2139
電話利用の氏名
- ②予約時刻10分前位に、会員登録を身に纏って乗車場所で待ちます。
- ③他の予約者と乗り合わせて、目的地へ向かいます。
- ④目的地に着いたら、料金を支払い降車します。

お願いとご注意

- 1運行に支障が無い限り利用者の玄関から目的地の玄関まで乗車可能です。
- 2乗合わせたので、予約時刻と利用時刻は前後します。
- 3お急ぎの場合や時間に余裕がない場合、他の交通手段を利用ください。
- 4予約時刻が過ぎて、お迎え場所より予約者が発生されない場合は、発車する場合があります。
- 5乗車人数・予約時刻等の状況により予約をお受けできない場合があります。
- 6天候や交通事情により運行を中止する場合があります。
- 7市内での飲酒や喫煙は禁止です。

（1）令和3年（2021年）5月28日 金曜日

市民タイムス

発行所 市民タイムス 本社 〒390-8539松本市大字島立800番地
TEL (055) 944-7777 編集 TEL (055) 944-7774 広告 TEL (055) 944-4755 〆市民タイムス2021年
FAX (055) 944-4122 編集 FAX (055) 944-4125 広告 FAX (055) 944-2422 発行人 藤田 孝典 発行部

乗合タクシー 昨年度 利用335回



島内で運行1年余り

島内地区で運行されている乗合タクシー。住民の利用が少しずつ増えている。

交通空白地帯 高齢者の免許返納後押し

松本市島内の犬飼新田、平瀬川東、下田、山田の4町会の一交通空白地帯で、昨年4月から運行している乗合タクシーの1年間の利用実績がまとまった。今年3月末までには住民のなるる回車し、延べ411人が市内の病院や商店へと出掛けるのに利用した。高齢者が多く住む旧区の需要の足しとして有効活用され、高齢者の運転免許返納に「小口活」もつながった。

開始当初は新型コロナウイルス感染症の影響で4月の利用が伸び、5月の利用が伸び、5月には延べ12人だった。その後は少しずつ利用者が増え、新型コロナウイルスの感染状況に左右されながらも今年3月までには66回の乗車を延べ11人が利用するまでに。また、2月1日からは去帰りで利用する人も増え、タクシーの利用は初めて。市民タイムスに「市民タイムス」が、地域の公共交通手段として、市民の利便性を高めることに貢献している。また、市内の交通空白地帯への公共交通手段の確保にも貢献している。

公民館活動によって生み出されたもの

- 「平瀬古城会」を核とした、島内地区への展開
- その過程での近隣町会との連携体制の構築
→課題解決の施策に取り組む土壌を生んでいる。

- 多様な実践を通して住民同士の関係性を築く
- 物事を話し合いによって解決していく習慣を地域に根付かせる
- 活動の知恵やノウハウ、人材等を蓄積する
→地域づくりを進めていくための“土壌”を常に耕している